

総務省の住宅・土地統計調査によると、2013年の空き家数・空き家率は820万戸、13.5%です。

野村総合研究所では2030年の住宅市場予測をまとめました。現在97万戸の新設住宅着工戸数は2030年には55万戸へと減少し、空き家率は既存住宅の除却や多用途への有効活用が進まなければ、2033年には現在の2倍の30%に達すると予測しました。

同研究所では、新設住宅着工戸数に大きく影響を与える要素として、①移動世帯数、②平均築年数、③名目GDP成長率の3点をベースに分析しました。それによると、世帯数の減少や住宅の長寿命化により、今後、住宅着工戸数は漸減傾向が続き、2016年の97万戸から、2017年には84万戸（近年の貸家の積極供給が継続した場合は92万戸）、2020年には74万戸、2025年には66万戸、2030年には55万戸まで減少していくとしました。2030年時点での利用関係別の内訳は、持ち家18万戸、分譲11万戸、貸家25万戸になる見通しです。

空き家数・空き家率は世帯数の減少と総住宅数の増加に伴い、2033年には2166万戸、30.4%に上昇すると予測しました。3軒に1軒が空き家ということになります。その時点での内訳は「賃貸用・売却用」が1265万戸、利活用の目途が立っていない「その他住宅」が785万戸、「二次的住宅」が116万戸になる見通し、としています。

空き家率を抑制するための対策案として、住宅ストック総量規制に向けて、「例えば住宅を1戸建築するためには、1戸除却することを義務づける”新築権”の導入が考えられる」としました。一つの案ですが、利活用の目途が立たない空き家の除却を推進できるのではありませんか、としています。

## ☆山・旅・諸々 ☆

7月下旬、岩手県の「民話の里」遠野と「ハヤチネウスユキソウ」（日本のエーデルワイスと言われる）で知られる早池峰山に行ってきた。

柳田國男の「遠野物語」には「オシラサマ」「サムトの婆」「カッパ」「デンデラ野」「コンセイサマ」等々民話の主人公が沢山出てくる。

私は過去数回訪れているが、特にカッパが大好きだ。7~8mの川幅で、ゆっくり流れ、川の淵まで草木が生い茂り、所々に人が乗れる岩が点在し、今にもカッパが飛び出てきそうな感じだ。

遠野出身の友人宅で語り部から聞いた「遠野昔ばなし」に永遠の日本のふるさとも感じた。



遠野・カッパ淵